

## 八王子まつりと山車



平成15年、全国有数の<sup>でんとうげいのう</sup>伝統芸能をいかしたまつりと<sup>みと</sup>認められ、「地域伝統芸能大賞を受賞した八王子まつり。♪ぴ〜ひゃらら♪というお囃子があちらこちらから聞こえてきて、八王子まつりは、子どもも大人もワクワクします。

その中でも気分を最高に盛り上げるのが、山車のひきまわし。「い〜ちに〜のやあ〜い」という昔からのかけ声がひびきわたり、それぞれの地区の山車が<sup>こうしゅう</sup>甲州街道で競演します。

八王子で山車がひかれるようになったのは、いつごろでしょう。

その山車は、どんな<sup>とくちょう</sup>特徴をもっているのでしょうか。

さあ、八王子まつりと山車について調べてみましょう。

## 八王子まつりの歴史

昭和36年8月26日、「3万人の夕涼み<sup>すず</sup>」として行われた市民祭<sup>しみんさい</sup>にはじまります。このころ、八王子は、人口がどんどん増えていたときでした。『八王子に生まれ育った人と新しく住民になった人々の結びつきを強めるとともに、自分の住む土地のことをもっと好きになってもらおう』という願いのもと、開催<sup>かいさい</sup>されました。富士森市民競技場<sup>きようぎじょう</sup>での花火や、野外演奏会<sup>えんそう</sup>が中心でした。

昭和39年（第4回）には、主な会場を甲州街道に移してパレードを盛大<sup>せいたい</sup>に行うようになります。

昭和41年（第6回）市制施行<sup>しせいしこう</sup>50周年記念市民祭には、初めて12台の山車がパレードに参加、昭和43年（第8回）には、市外からも大勢の人が集まるようになり、市民だけの祭りでなくなったということから、「八王子まつり」に名前が変わり、各町会の山車が正式に参加するようになりました。

八王子には、下の祭り・上の祭りと呼ばれ、親しまれていたお祭りもありました。八幡・八雲神社<sup>はちまん やくも</sup>（元横山町<sup>もとよこやまちょう</sup>）の祭りを下の祭り、多賀神社<sup>たが</sup>（元本郷町<sup>もとほんごうちょう</sup>）の祭りを上の祭りと呼び、300年ほどの歴史があり、それぞれ、7月と8月に行われ、山車がひかれていました。昭和43年、下の祭りと上の祭りが合体し、八王子まつりで、山車のひきまわしが行われるようになりました。

時代時代に応じ、模様替え<sup>もようが</sup>が行われてきた八王子まつりですが、平成14年（第42回）からは、伝統の山車（だし）を中心とした祭りに生まれ変わり、平成15年（第43回）には全国でも有数の伝統芸能と認められ、八王子まつり実行委員会が、「地域伝統芸能大賞」を受賞しました。

八王子まつりは、町の人たちによって大切に守られ、伝えられている山車や神輿<sup>みこし</sup>を見ることができ、貴重な機会<sup>きちよう きかい</sup>です。



### ← 見所のひとつ!! 多賀神社の大神輿

明治15年（1882年）、東京浅草でつくられたと伝えられています。重さが約3,700kg（二千貫）もあり、関東有数の大きさを誇ります。

## 山車まつりのはじまり

甲州街道に面した旧市街地は、江戸時代には八王子（横山）十五宿と呼ばれ、商業地として発展してきました。この地域は、現在の国道16号を境に、東側は八幡八雲神社の氏子、西側は多賀神社の氏子地域に分かれていました。氏子とは、その土地の守り神をまつっている地元の人々のことをいいます。町の人々の力が大きくなるとともに、各町内では、競い合うように山車が作られるようになり、祭りの際に山車がひかれるようになりました。江戸時代の享保年間（1716～1735）からひかれるようになったといわれています。

### 山車の意味と役割

山車とは、高い所から訪れる神様を、お迎えして祭りの場に運ぶためのもので、美しく飾った依代（神さまがとどまる所）をのせた屋台のことをいいます。祭りのときには、神様と地域の人々が一体となって楽しみ、神さまに喜んでもらうということなのです。しだいに、山車そのものが祭りを盛り上げる主役になり、さまざまに工夫され、祭りを彩るようになりました。

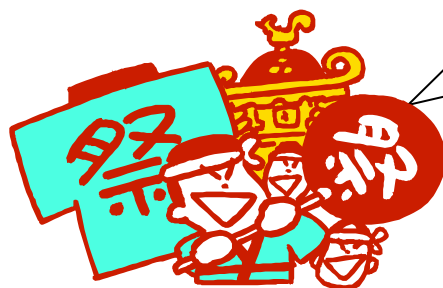
## 八王子の山車の特徴

八王子は過去に3回の大火事にあっていますが、そのたびごとに、山車を焼失してしまった町の人々は、たくさんのお金を集めて、山車を作り直してきました。現在八王子にある山車のうち、12台は、市の指定文化財になっています。それらの山車は、明治後期から昭和初期につくられたものが多く、昭和20年の空襲のときにも、焼失を免れたものです。その時代を代表する宮大工（神社・寺を専門とする大工）や、東京の名匠（すぐれた腕前の職人）として活躍した彫刻家のほか、車師、塗師、金具師など多くの職人の手で作られています。八王子の山車は彫刻山車として有名で、山車には竜や花、人などの細かい彫刻が全体にわたって組みこまれています。新しくつくられた山車も見事な作品ばかり。八王子まつりで山車と山車が競い合う「ぶっつけ」や競演する「辻合わせ」など、山車の美しさや迫力を味わってみましょう。



← 大正、昭和時代に活躍した彫刻家・佐藤光重の作品  
元横山町の山車

各町内の山車の特徴など、次のページにある本を使って調べてみましょう。



昔の人にとって祭りは、なくてはならないものでした。仮装行列をして山車まつりを楽しむみんなのおじいちゃんのもたまたおじいちゃんのころの写真も、図書館にある本でみることができますよ。

## 調べてみましょう

ひとつのテーマについて調べる時、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、図書館にある本の中で、小・中学生のみなさんにもわかりやすいものです。自分で調べ、まとめてみましょう。

※最初にかいてある数字は、本の背表紙についている分類（ラベル）番号です。

※☆印のついてるものは、特に小学生におすすめのものです。

- 21-38 <sup>まつりこうきょうきよく</sup> 祭交響曲 第26番 <sup>へん</sup> 八王子まつり実行委員会/編 1986年  
八王子まつりの歴史がかかれています。
- ☆21-38 八王子の山車 八王子市教育委員会/編 1998年  
指定有形文化財になっている12台の山車を解説。
- 21-38 八王子歴史空間 八王子の山車祭 山下泰司/編 1999年  
明治後期からの八王子の山車まつりの写真を集めたもの  
昔のまつりの様子をみることができる。
- 21-38 八王子の山車（パンフレット） 1981年  
各町内の山車の特徴を写真とともに紹介
- 21-38 八王子まつり 山車マップ 八王子まつり実行委員会/編 2000年  
各町内の山車の特徴を写真とともに紹介
- ☆21-38 目で見える八王子の山車まつり <sup>のんぶる舎編集部/編</sup> 2000年  
豊富な写真と解説（150ページ）で、八王子の山車について色々な角度からまとめられている。昔の祭りの写真がたくさんでている。
- 21-38 八王子の曳山祭 <sup>ひきやま</sup> 相原悦夫/著 1975年  
<sup>けんきゆう</sup> 市内で山車を研究している方の本。大変詳しい説明。
- 21-38 八王子の曳山彫刻 <sup>ちようこく</sup> 相原悦夫/編著 1986年  
市内で山車を研究している方の本。大変詳しい説明。
- ☆21-38 市制90周年記念 八王子まつり山車・宮神輿瓦版 <sup>みやみこしかわらばん</sup> 八王子まつり実行委員会/編 2006年  
市制施行記念ごとの山車まつりの歴史と、各町内会の山車の紹介。
- 21-31 広報はちおうじ 2000年 8月1日号  
2002年 7月1日号  
2004年 8月1日号  
2006年 8月1日号  
2009年 8月1日号  
2010年 8月1日号

インターネット情報 八王子まつり公式サイト

<http://www.hachiojimatsuri.jp/>

編集・発行

八王子市中央図書館

2010年12月

八王子まつりと山車

**参考文献を所蔵している図書館 ※2015年12月現在**

表の中の○は貸出もできるもので、△は見たり、コピーしたりできます

タイトル	所蔵図書館					
	中央	生涯	南大沢	川口	北野	みなみ野
祭交響曲 第26番	△	△	△			
八王子の山車 (本 1998年)	○	△	△	△	△	
八王子歴史空間 八王子の山車祭り	△	△	△	△		
八王子の山車 (パンフレット 1981年)	△					
八王子まつり 山車マップ	△	△				
目で見ると八王子の山車まつり	○	○	○	○	△	△
八王子の曳山祭	○	△			○	
八王子の曳山彫刻	△					
市制90周年記念 八王子まつり山車・宮神輿瓦版	△					
広報はちおうじ 2000年8月1日	△	△	△	△		
広報はちおうじ 2002年7月1日	△	△	△	△		
広報はちおうじ 2004年8月1日	△	△	△	△		
広報はちおうじ 2006年8月1日	△	△	△	△	△	